

令和3・4年度 東京都教育委員会人権尊重教育推進校

研究主題

互いのよさを認め合い、輝くことができる子の育成 ～『かかわり合い』を通して～



はじめに

本校は、令和3・4年度東京都教育委員会人権尊重教育推進校としての指定をいただき、全教育活動を通して研究・実践を進めているところです。今年度は研究主題を「互いのよさを認め合い、輝くことができる子の育成～『かかわり合い』を通して～」とし、特に特別の教科 道徳と特別活動を中心に置きながら、学校の様々な教育活動を通して人権教育の在り方を模索し、人権意識や自尊心を高めるための取組を行ってまいりました。

ここ2年ほどのコロナ感染症の拡散の影響を受け、なかなか思うような活動ができない学校現場ではありましたが、感染防止に細心の注意を払い教育活動を進めてまいりました。新たな人権課題として、感染者やそれに関係する方々への人権的配慮の学習にも取り組んでまいりました。

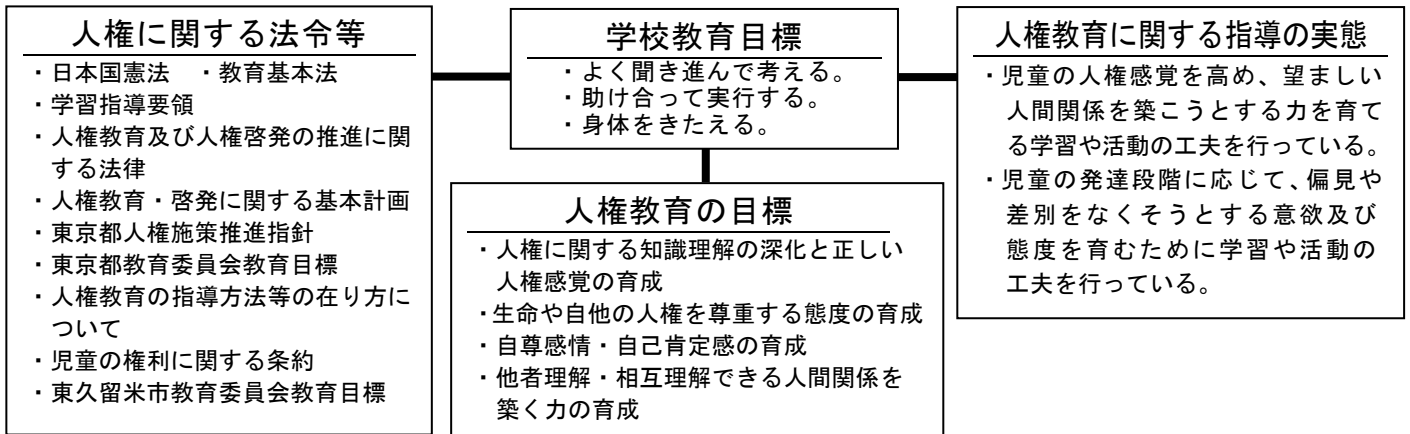
本校は、人権尊重教育推進校として1年目であり、まだまだ研究・実践の途上です。今年度の実践・研究の成果を検証し、2年目の研究を深めていきたいと考えております。神宝小学校の子供たちはもちろんのこと、家庭・地域の人権意識の向上につなげていければと思います。今後も研究を深め、広めることをお約束し、ご指導を賜りました皆様への感謝の気持ちとさせていただきます。

東久留米市立神宝小学校
校長 大野 寿久

東久留米市立神宝小学校

〒203-0002 東京都東久留米市立神宝町1丁目6番7号
電話 (042)474-4108 FAX (042)472-7990
<http://members3.jcom.home.ne.jp/shinbo-e/>

人権教育の全体計画



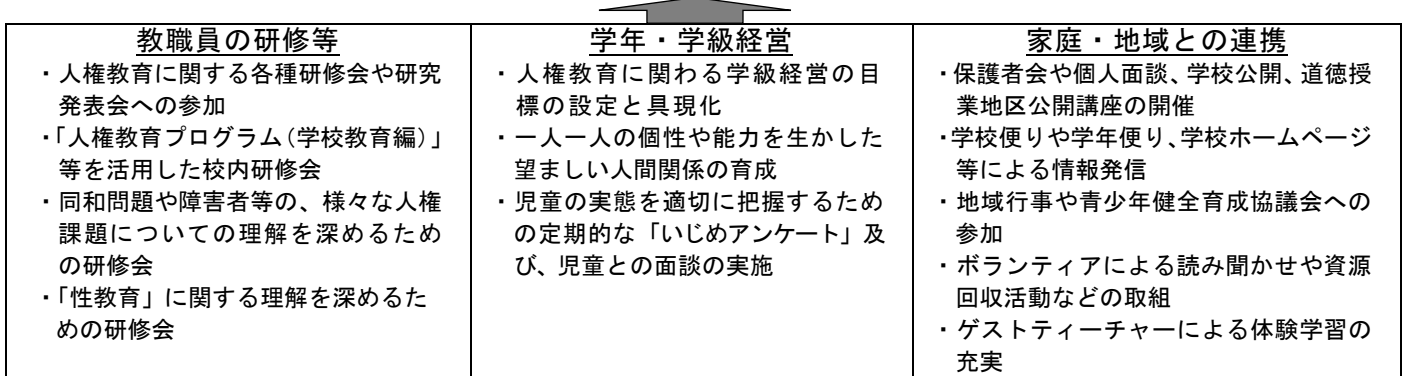
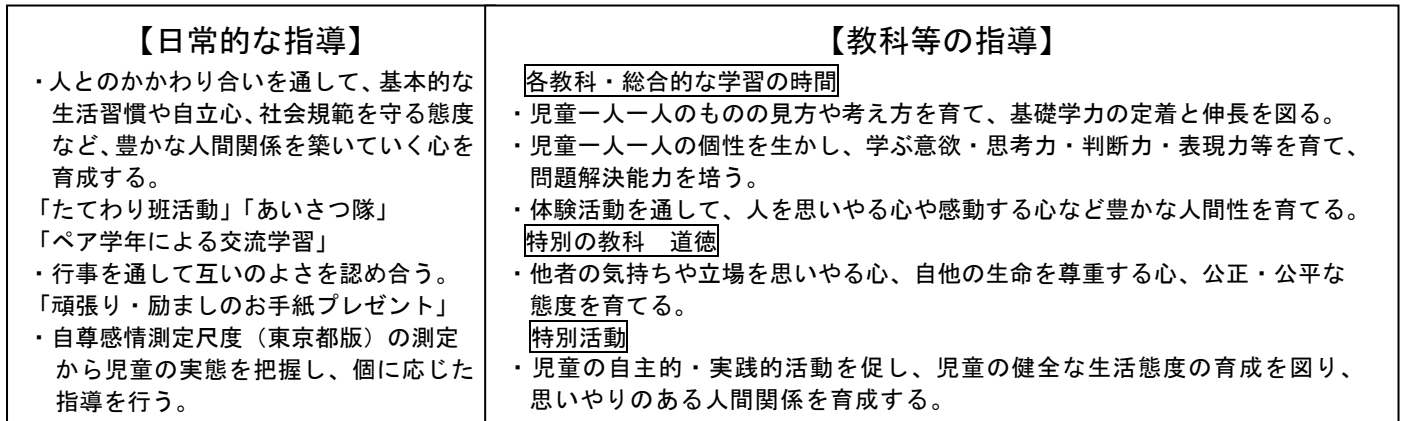
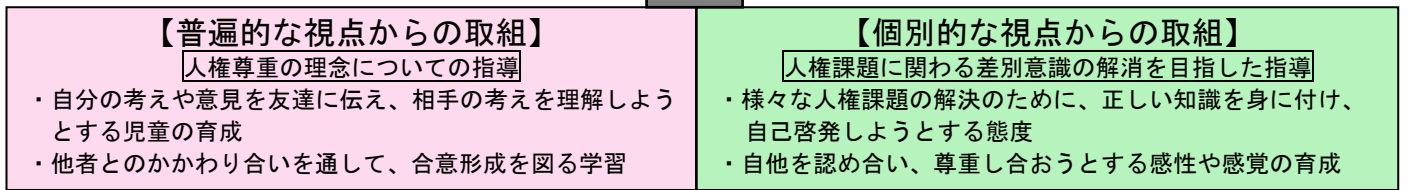
研究主題
互いのよさを認め合い、輝くことができる子の育成 ～「かかわり合い」を通して～

目指す児童像

- ・身近にある様々な偏見や差別の不合理さに気づき、人権に関わる問題を正しく理解し行動できる子
- ・自分で考え、自信をもって行動できる子
- ・生命を尊重し、人に思いやりをもって接する子

人権教育を通じて育てたい資質・能力

知識的側面	価値的・態度的側面	技能的側面
<ul style="list-style-type: none"> ・自他の人権を尊重し、人権課題を解決するために必要な知的理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他についての肯定的な態度、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・能動的な傾聴、適切な自己表現力等を可能とするコミュニケーション能力



普遍的な視点からの取組

第1学年 特別活動(1)「みんなでかきかきしよう」

【目標・ねらい】

自分たちの学級でみんなも自分も楽しくなるような係を考え、友達の思いを生かす工夫をする。

【学習活動】

事前に調査した他学年の係活動を全体で共有し、やってみたい係を伝え合う。決定した学級の係活動を通して、友達と協力しながら自己実現を図ろうとする態度を養う。

【人権教育の視点】

- ・自他の価値を尊重しようとする態度を育成する。(価値的・態度的側面)
- ・人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能を高める。(技能的側面)



個別的な視点からの取組

第5学年 特別の教科 道徳 「だれもが幸せになれる社会を」(公正、公平、社会正義)

【目標・ねらい】

誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めようとする実践意欲を育てる。

【学習活動】

総合的な学習の時間に、国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」と関連付けてハンセン病の歴史を知り、誰もが幸せになれる社会や学級の実現に向けて話し合い、考える。

【人権教育の視点】 ※人権課題 HIV感染者・ハンセン病患者等

- ・ハンセン病の元患者の人々の思いや願いを知り、豊かな共生社会の実現に向けて互いを認め合い尊重し合おうとする感性や感覚を養う。(価値的・態度的側面)
- ・差別意識から生じる様々な課題解決のために、正しい知識を身に付け、自分たち一人一人の意識を見つめ直し、自らを啓発していこうとする意欲や態度を育成する。(価値的・態度的側面)



日常的な取組

人権掲示「各学級の標語や人権作品」



思いやりの心や親切、助け合いの観点から、各学級で「いじめのない学級にするには」を話し合い、標語を作成した。

豊かな人権感覚

「豊かな人権感覚」を目指して、各学年の実態に応じた取組を行っている。

4年生では「人権」について各学級で深め、図工の時間にポスターを作製した。



異学年との関わり

1年生から6年生までのたてわり班を編成し、集会での様々な遊びを通して、友達との仲を深めることができた。

活動内容を6年生が企画し、めあてをもって楽しくできるよう工夫している。



委員会活動

5・6年生を中心に、学校生活の充実を図るための課題を見だし、その解決に向け、自主的・実践的に取り組む態度を養っている。



頑張り・お手紙プレゼント

運動会や学習発表会等では、交流学年を中心に、演技等に対する感想や友達の輝いていた姿、お世話になったお礼などを手紙にしてプレゼントしている。



図書室の人権コーナー

図書委員が「人権」に関する本を集め、「人権コーナー」を設置した。

児童が手に取りやすくなり、意識を高めることができた。



成果と課題

<成果>

- ・「かかわり合い」を通して、児童が自分の考えだけでなく、他者の考えを、より意識して認め合おうとする姿勢が見られ、育てたい資質・能力を育成することができた。
- ・人権教育に関する各種研修会や研究発表会への参加、人権教育プログラム（学校教育編）等を活用した研修の機会を通して、全教職員の人権意識を向上させることができた。
- ・各教科の「人権的な視点」を踏まえた授業実践をより効果的に行うため、週ごとの指導計画等を活用した「人権教育週間」を設けたことで、各教科との指導を関連付けて、意識的・計画的な取組を行うことができた。

<課題>

- ・感染症対策により、他者とかかわり合う活動に制限があり、児童の体験的な学習の機会が少なかった。発達段階に応じて地域やゲストティーチャーと連携し、意図的・計画的な指導を進める。
- ・今年度は道徳科及び特別活動（1）学級会を中心に授業研究を行った。来年度は、焦点をしぼり、全教科に授業実践を広めて、深まりのある研究を行う必要がある。
- ・来年度は、人権教育に関する学校の取組を、学校便りや学校ホームページ等で家庭や地域に発信する機会を増やし、学校評価を含めて意図的・計画的に家庭・地域と共に行う校内研究にする必要がある。

<御指導いただいた先生方>

帝京大学大学院 教職研究科 教授	赤堀 博行 先生
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官	浅見 哲也 先生
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官	安部 恭子 先生
全国道徳特別活動研究会参与	木内 悦雄 先生
全国道徳特別活動研究会参与	河野 紀之 先生
國學院大学 人間開発学部 初等教育学部 教授	杉田 洋 先生
東京学芸大学養護教育講座専任講師	鈴木 琴子 先生
東京都教育庁指導部指導企画課指導主事	長島 寛和 先生
日本道徳科教育学会前会長	長谷 徹 先生

五十音順

<研究に携わった教職員> ◎研究主任 ○研究推進委員会 (幹)主幹教諭 (導)指導教諭 (任)主任教諭

校長 大野 寿久 副校長 宮崎 貴仁

--	--	--